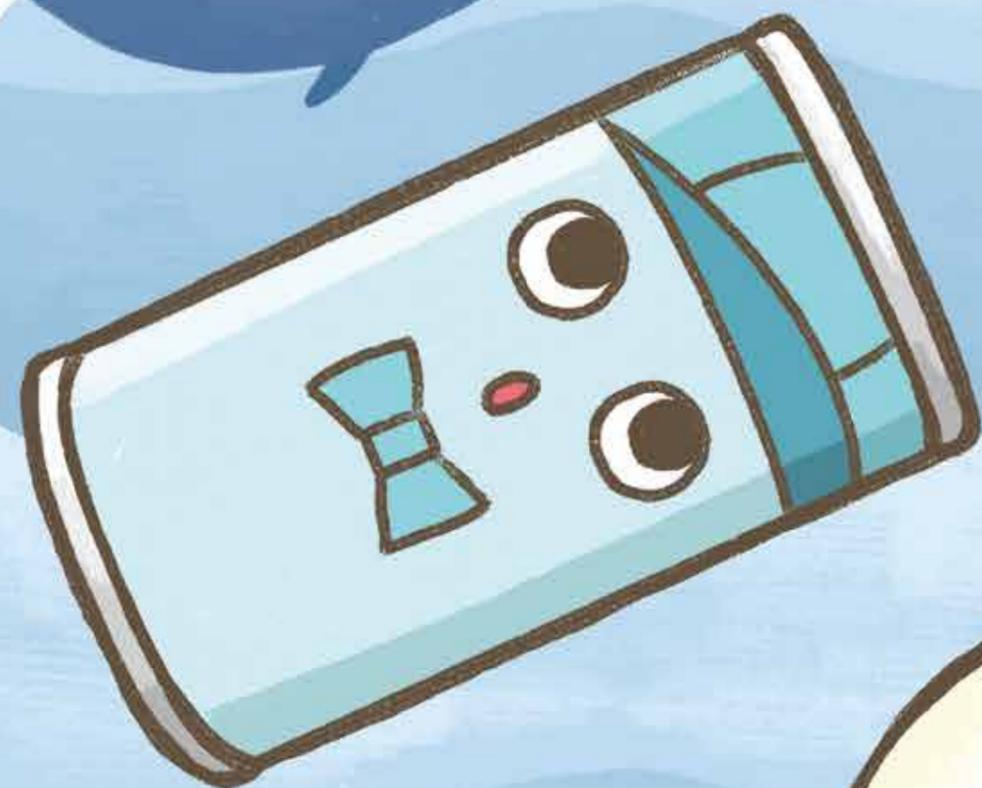


ぼくたちわたしたち

生まれ変わりがかったなあ!



作：山崎 順史
構成：後藤 桂太

大分市環境部 ごみ減量推進課



ぼくはレジぶくろくん。

とっても便利で、野菜を入れたり

荷物を入れたり色々なものに

使われているよ。

それに、とっても軽いんだよ。

ものを
入れたり



ほくほく、
レジぶくぶく



とっても
かるーい





わたしはペットボトルちゃん。
とっても便利べんりでジュースや水みずを入れたり、
調味料ちょうみりょうを入れたり色々いろいろなものに使つかわれているよ。
それに、キャップをしめるとこぼれないんだよ。



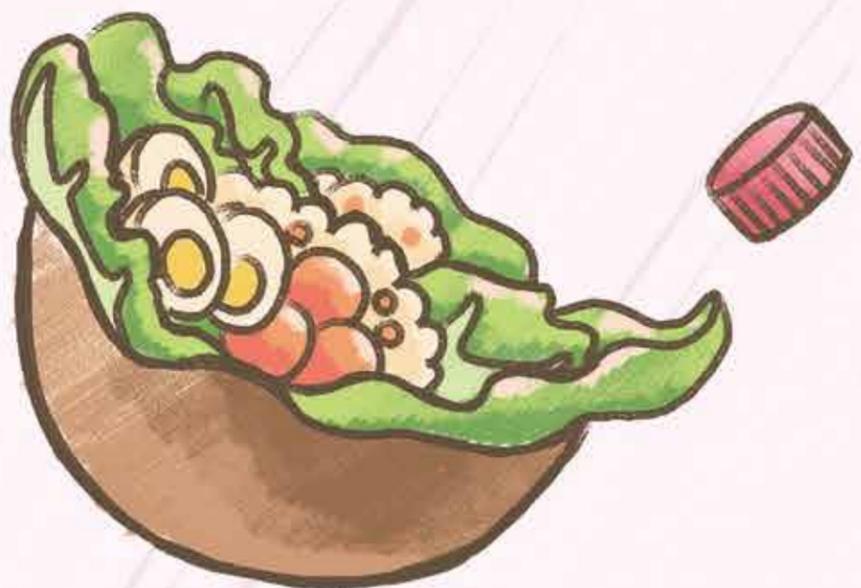
わたしは、
ペットボトルさん



みず
水を
入れたり



ドレッシングを
入れたり



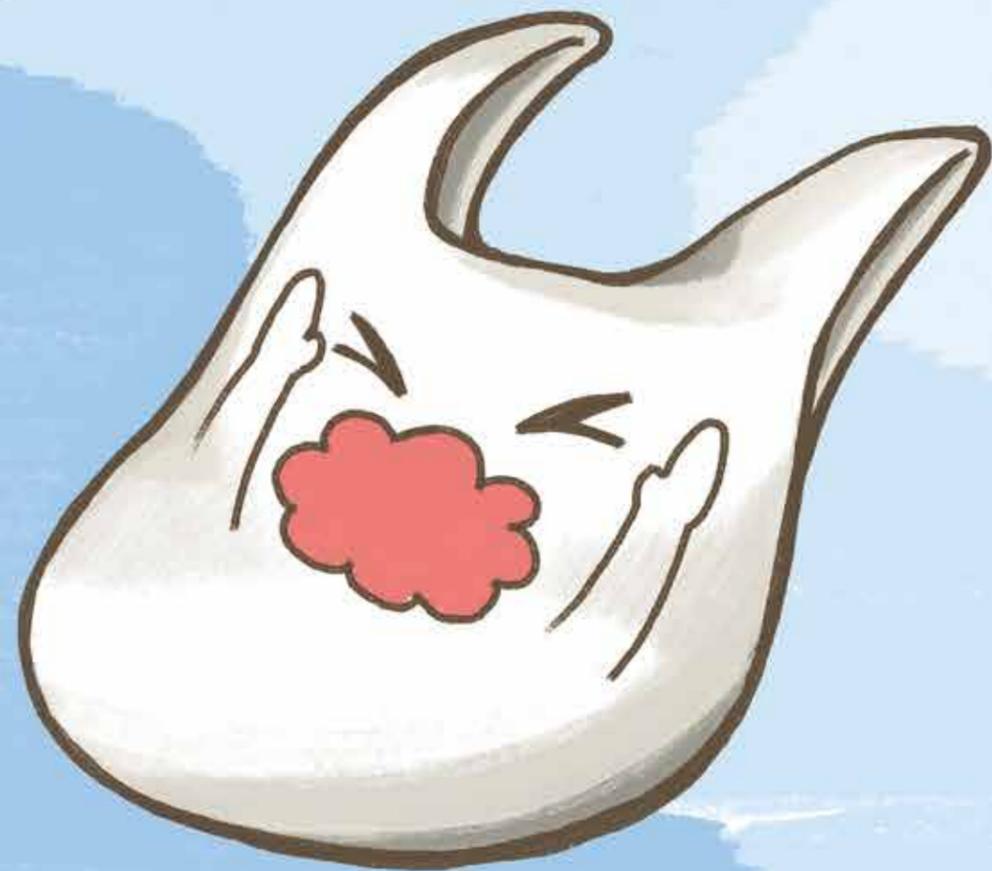


でも、人間に使われた後は、
人間にポイすてされてしまうことがあるのです。
レジぶくろくんとペットボトルちゃんは、言いました。
いやだあ、すてないでえ!

ポイ



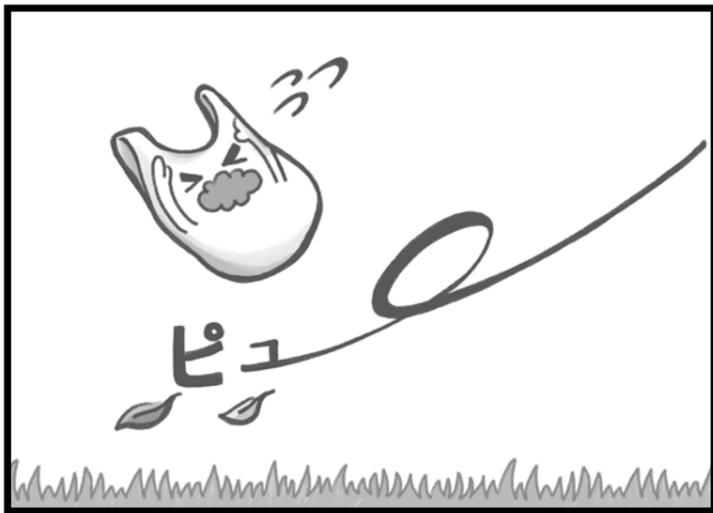
ポイ



もう、いらないから
すてちゃおう

いやだあ!

すてないでええ!



ポイすてされたレジぶくろくんは、
風かぜに飛とばされて川かわに落おちてしまいました。
レジぶくろくんは必死ひっしにさげびました。
わあ、だれか助たすけてえ！



ピン

ユ





その時、川の近くにポイすてされていた
ペットボトルちゃんが、言いました。

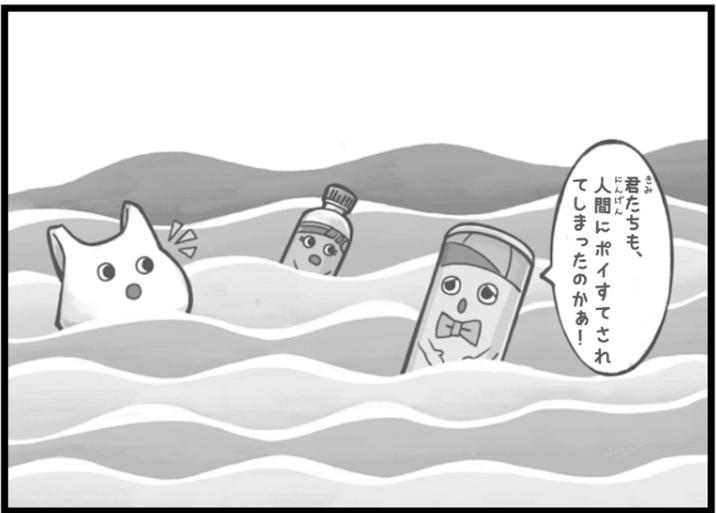
レジぶくろくん大丈夫？

今、助けるからね、待っててね！

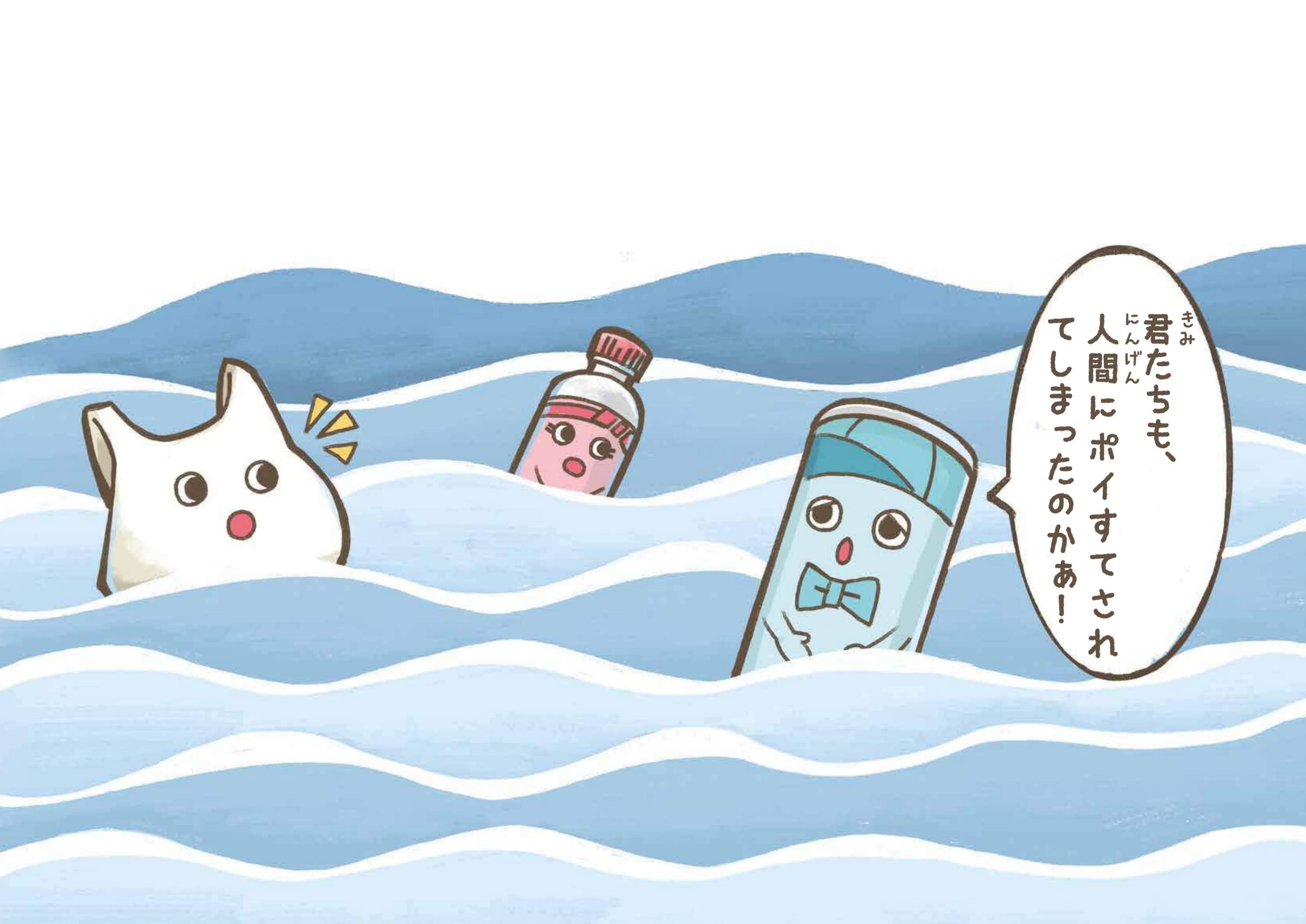
レジぶくろくんを助けようとしたその時、
すべって川に落ちてしまい、
いっしょに流されてしまいました。

たすけてえー!





そこへ、川かわに流ながされていたカンくんが、
レジぶくろくんとペットボトルちゃんに
話はなしかけてきました。
君きみたちも、人間にんげんにポイすてされてしまったのかあ。
実じつはぼくもポイすてされて流ながされてきたのさ。
ぼくたちをすてないできちんと片かたづ付けてくれば、
また、生うまれ変わかれることができたのね。



きみ
君たちも、
にんげん
人間にポイすてされ
てしまったのかあ！



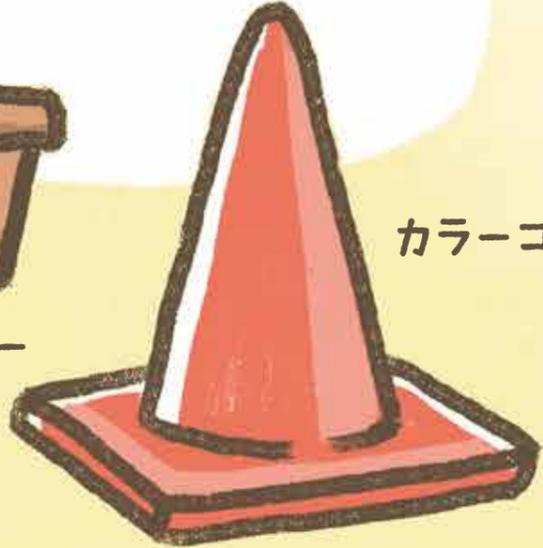
レジぶくろくんとペットボトルちゃんとかんくんは、それぞれ、生まれ変わりたいものを思いうかべました。そして、レジぶくろくんは、言いました。
 ああ、生まれ変わりたいなあ。

ペットボトルちゃんも言いました。
 わたしも生まれ変わって、
 今度はきれいな洋服になりたいなあ。
 かんくんも言いました。
 ぼくだって、便利な物に生まれ変わりたいなあ。

生まれ
変わりがかったなあ



プランター



カラーコーン

便利なものに
生まれ変わりたいよお



くるま
車

きれいな洋服に
なりたいなあ



ようふく
洋服



たまごパック





レジぶくろくんとペットボトルちゃんとカンくんは、生まれ変わりたいと思いつながら川を流れていきました。すると不安に思ったレジぶくろくんは言いました。

でも、ぼくたちはこのままどこへ流れていくの？
カンくんは、ゆつくりと答えました。

海さ、海まで流れていくのさ。

ペットボトルちゃんは、今にも泣き出しそうな声で言いました。
ええ、海！そんなところまで流れるの、いやだよ。

それから、どれくらい流れたのでしょうか。
みんなつかれてしまいお話もできなくなりました。

そして、しばらくすると、
海が見えてきました。

ズレもど
なが
流れていくの？





レジぶくろくんとペットボトルちゃんとカンくんが
海うみに流ながれ着つくと、カンくんは言いいました。

もう、きみたちとはお別わかれだね、ぼくは重おもたいから
流ながれがないとしずんでしまうのさ。

さようなら元げん気でね。

今こん度は、みんなで生うまれ変かわられたらいいね。

ペットボトルちゃんは、泣なきながら言いいました。

いやだあ、行いかないで、さみしいよお。

レジぶくろくんも泣なきそうになりながら、言いいました。

さみしいけどお別わかれなんだね、

今こん度は、みんなで生うまれ変かわろうね、約やく束そくだよ。



かみゆつなうら



カンくんは、お別れを言つと
ゆっくりゆっくりしずんでき、
とうとう海の底にたどり着きました。

海の底には、たくさんのよごれた
カンくんの仲間がしずんできました。
すると、よごれた顔のカンさんが
話しかけてきました。

また、だれか落ちて来たのか、
ぼくらはみんな人間にポイすてされてここに流れ着いたのさ、
君もかわいそうだけど、このままぼくたちみたいに
どんどんよごれていき、ここで一生くらすのさ。
カンくんは、悲しくなり言いました。
これから、ずっとここに居るのか。
なんだか、なみだが出てきちゃったよ。
とうとう、カンくんまで泣いてしまいました。



また、
だれか落^おちてきたのか。





そのころ、レジぶくろくとペットボトルちゃんは、
カンくんのお別れわかに泣きながらういていると、
とつぜん大きな波なみが打ち寄せよせてレジぶくろくくんは
遠くとおに流ながされてしまい、ペットボトルちゃんは
キャップはずが外れてしまいました。

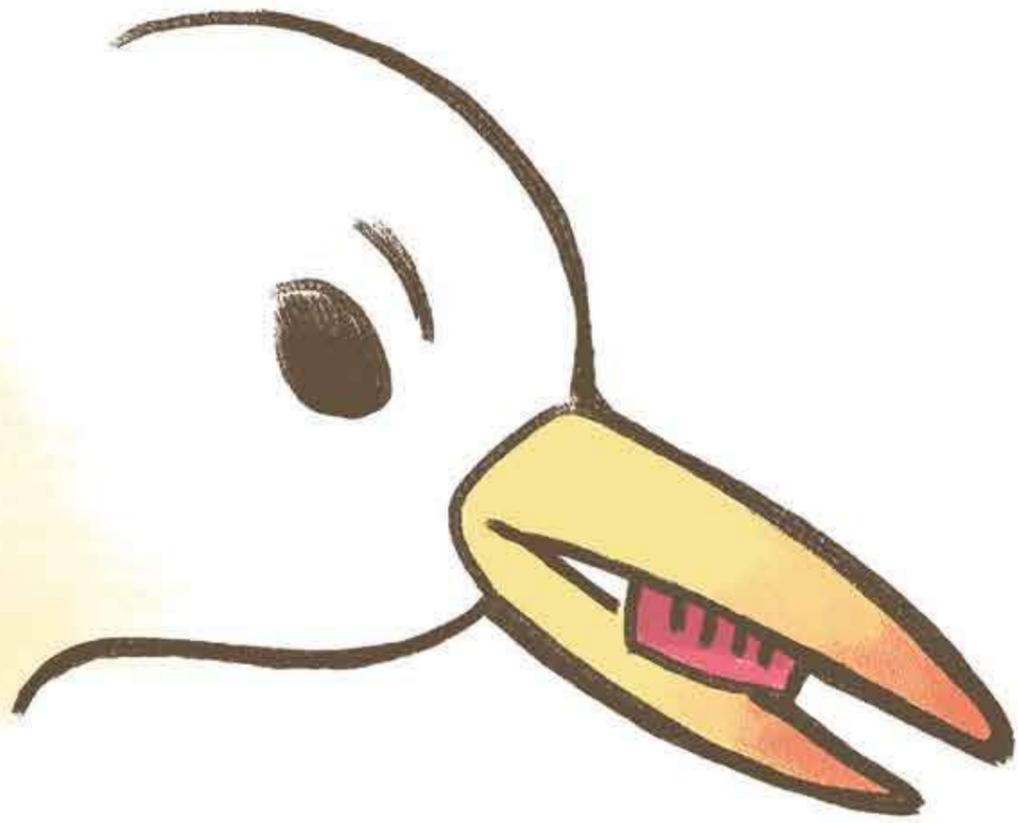
ペットボトルちゃんは、さげびました。
ああ、あたしのキャップ、待まってえ。
でも、キャップはどんどんはなれていき、
ペットボトルちゃんは、
えくん、えくんと、泣なきじゃくりました。





そこへ、ペットボトルちゃんの外れたキャップを
ウミドリが食べ物とまちがえてくわえました。
ウミドリは言いました。

やったあ！
食べ物も取れたし子どもたちも喜びがぞ。
そう言うと飛んで行ってしまいました。
ペットボトルちゃんは、
必死にさげびました。
返して、わたしのキャップ〜！



ぱくっ

食^た物^{もの}も取^とれたし、
子^こどもたちも喜^{よろこ}ぶぞー!



返^{かえ}して、
わたしのキャップさー!





ペットボトルちゃんは、泣き続けていると
 小さな魚たちがたくさん集ってきました。

そして、魚たちがペットボトルちゃんに話しかけてきました。
 ねえねえ、あなたは どうして泣いているの？

ペットボトルちゃんは、泣きながら答えました。

わたしのキャップが、ウミドリに食べられてしまったの。
 魚は言いました。

それは、かわいそうだね、それともう一つ聞きたいんだけど、
 君は魚なの？

最近、この海であなたにそっくりな仲間を
 たくさん見かけられるようになったんだけど。

ペットボトルちゃんは言いました。

ちがうよ、魚じゃないよ、

わたしはとっても便利なペットボトルちゃんなの。

でも、人間にポイすてされてここまで流れて来たの。
 えーん、えーん。

泣^ない^なら^らな^ない^いの^の？

えーん
えーん





そのときです。

とつぜん^{おお}大きなクジラが

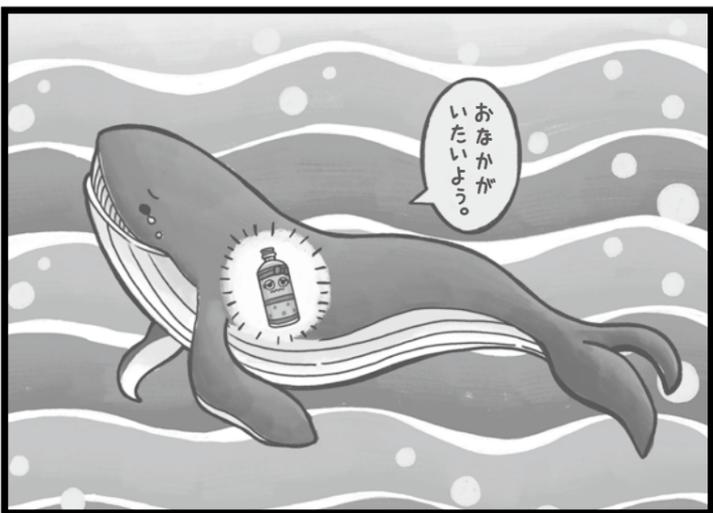
たくさんの^{ちい}小さな^{さかな}魚たちとペットボトルちゃんを

一口^{ひとくち}で飲み込んでしまいました。

井下

!!!





しばらくすると、ペットボトルちゃんと
魚たちを飲み込んだ大きなクジラは、言いました。
なにか、食べ物じゃないものまで食べちゃったかなあ。
おなかがいいたいよう。くっ、苦しいよう。

大きなクジラは、食べ物とまちがえてペットボトルちゃん
までも飲み込んでしまったため、
苦しくなり弱ってしまい、
泣きながら海の底へしずんでいきました。



おなかがいよいよ。



そのころ、ペットボトルちゃんと、はなればなれになったレジ
ぶくろくんは海をただよっていました。

すると、ウミガメがやってきて、言いました。

おっ、大好物なクラゲじゃないか、いただきます。

レジぶくろくんは、必死にさげびました。

わあ、やめてよお、クラゲじゃないよ、食べないでよ。

しかしウミガメは、クラゲとまちがえて

レジぶくろくんを食べてしまいました。

レジぶくろくんは、やぶれてしまい、

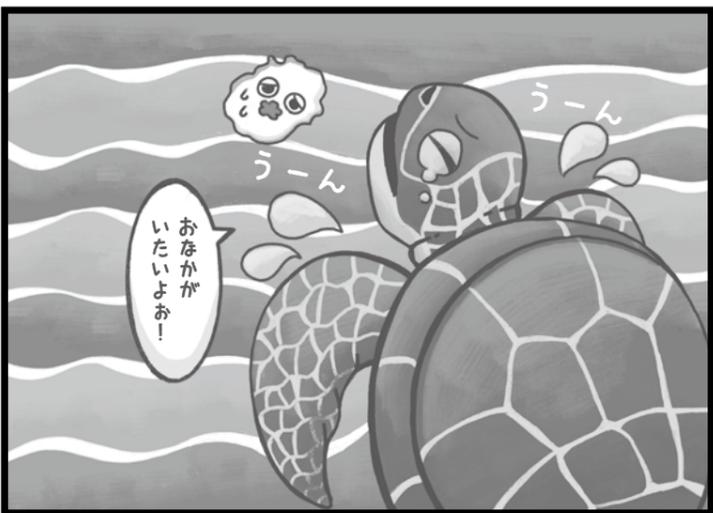
とうとう顔だけになってしまいました。

おしおしおし...



いただきますーすー!





レジぶくろくくんを食べたウミガメは、言いました。

ぼくは、大好物のクラゲを食べただけなのに、

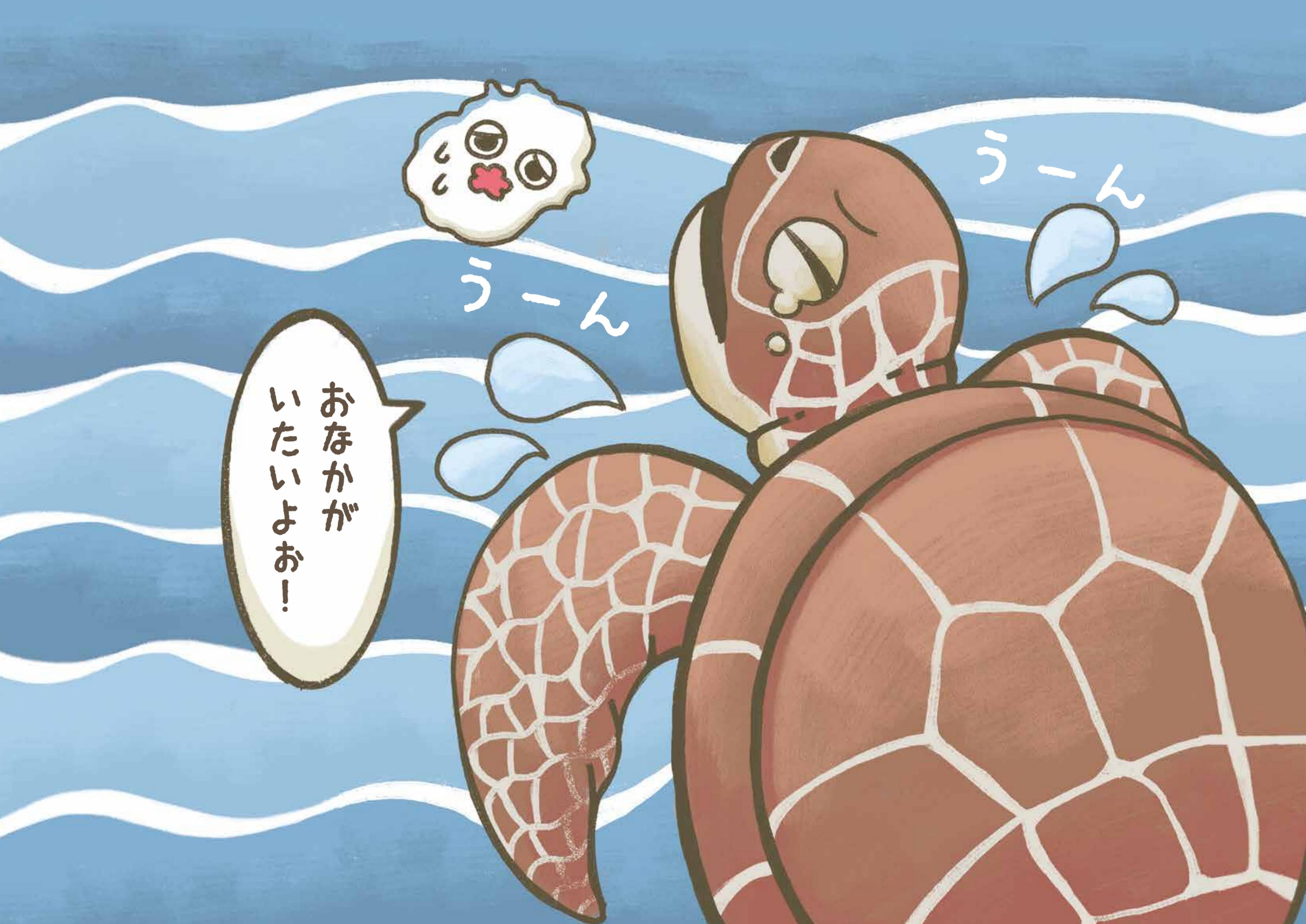
おなかがいいたいし、なんだか苦しくなってきたよお。

もしかして、クラゲじゃなかったのかな。

あいたた、おなかがいいたいよう。

レジぶくろくくんを食べたウミガメは、苦しくなつて

泣きながら、海の底へしずんで行ってしまいました。



うーん

うーん

おなかがい
いたいよあ!



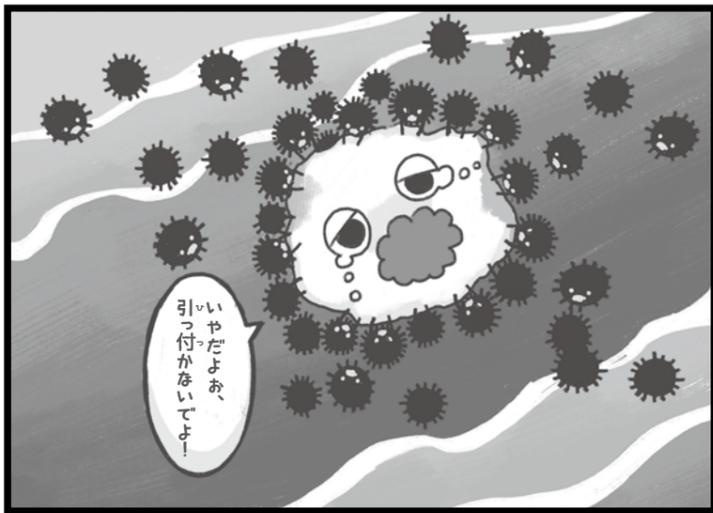
顔かおだけとなったレジぶくろくんは、
波なみや流木りゅうぼくにぶつかり

どんどん小ちいさくなくなってしまいました。

レジぶくろくんは、さげびました。

いたいよ、さみしいよ、だれか、いないの？





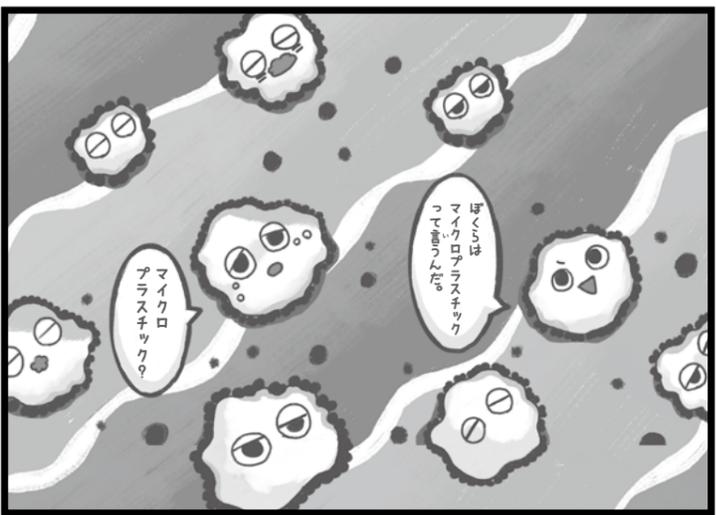
そしてレジぶくろくんは、どうすることも出来ず
一人でただよっている、なんだかきたないものが
勝手に、レジぶくろくんに引っ付いてきました。
それは、有害物質くんです。

有害物質くんは言いました。

おっ、やったあ、小さなレジぶくろじゃん、
みんな引っ付こうぜ、それー！
レジぶくろくんは、言いました。
なんでぼくに引っ付くの？
きたないよ、いやだよお。
引っ付かないでお。



いやだよお、
引っ付かないでよー!



そして周りを見わたすと、体にきたない有害物質を引っ付けた仲間がたくさんいました。

そして、その仲間が言いました。

ぼくらは、マイクロプラスチックって言うんだ。

きみも、すてられてやぶれて小さくなったのかあ。

ぼくらもずいぶん前にすてられて流されてやぶれて小さくなったんだ。

そうして海をただよっていたら、きたない有害物質が引っ付いて来て、きたなくなったのさ。

どうやらぼくらの体は、きたない有害物質を引き寄せてしまうみたいなんだ。

これではぼくらが海をよごしてしまうよね、

でも、ぼくらではどうすることもできないんだ。



マイクロ
プラスチック？

ぼくらは
マイクロプラスチック
って言った。

マイクロ
プラスチック



レジぶくろくんとマイクロプラスチックくんたちが
お話をしていた、その時です。

たくさんのお魚たちが、食べ物とまちがえて

マイクロプラスチックくんたちを食べにきたのです。

マイクロプラスチックくんたちは、

大きな声でさげびました。

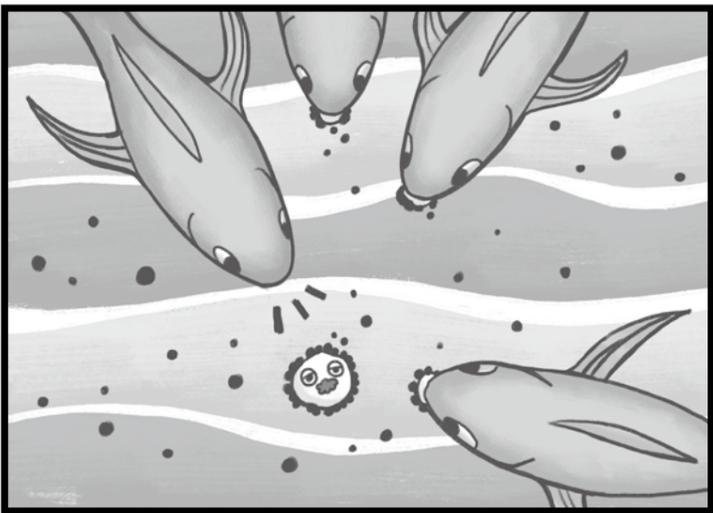
あぶない、食べられるぞ、みんな急いでにげろー！

レジぶくろくんも、おおあわてで

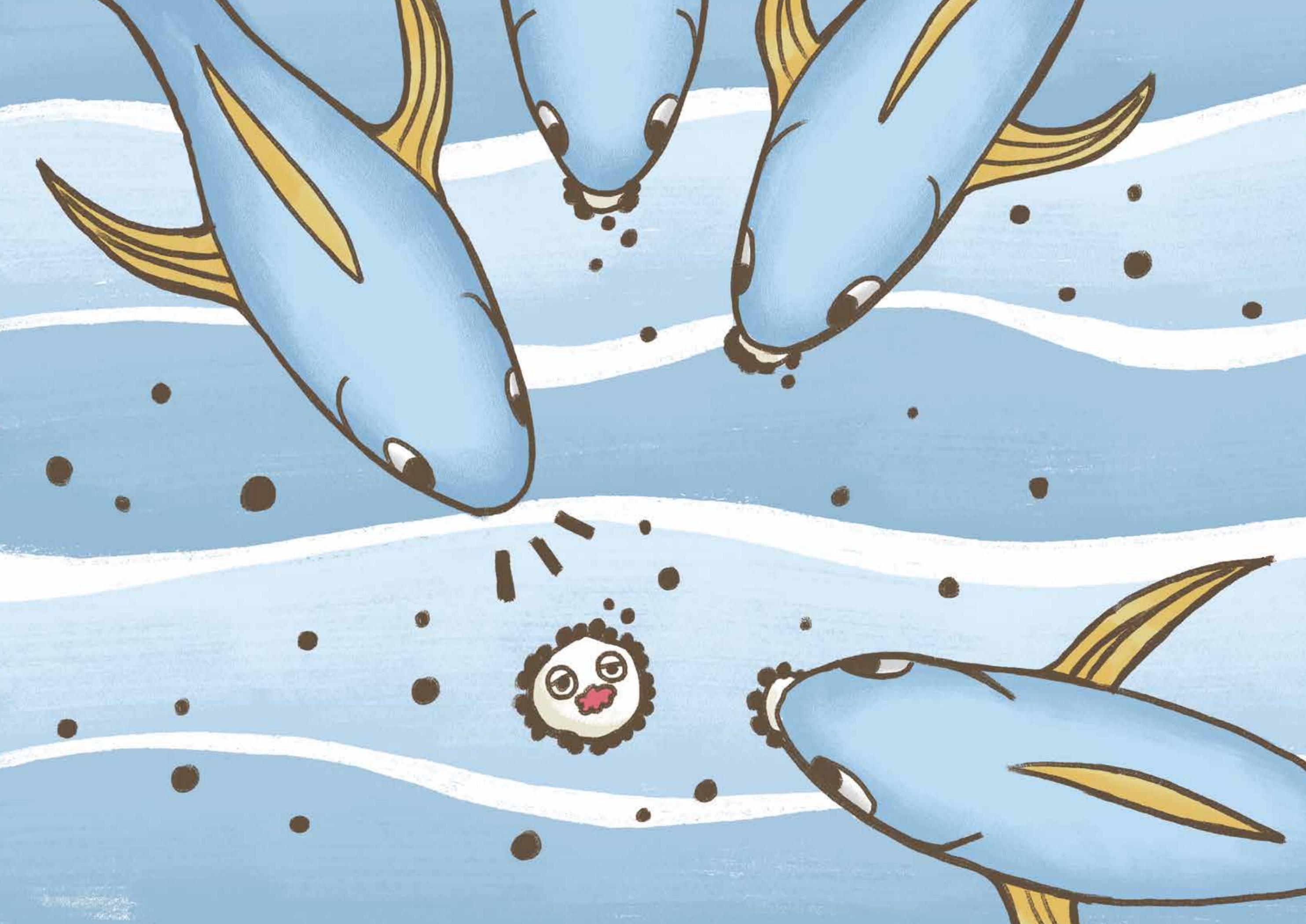
一生けんめいにげました。

みんな
いそ
急いで逃げろー！





しかし、次々とマイクロプラスチックくんたちが食べられて、
一生けんめいにげていたレジぶくろくんも
とうとう食べられてしまいました。





今度は、ポイすてをした人間が魚つりにきました。

人間がつりを始めると、マイクロナプラスチックくんや

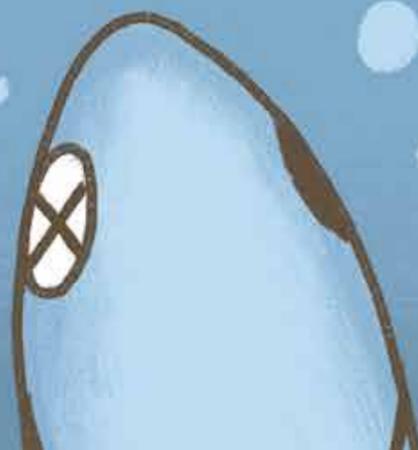
レジぶくろくんを食べた魚が次々につられていきました。

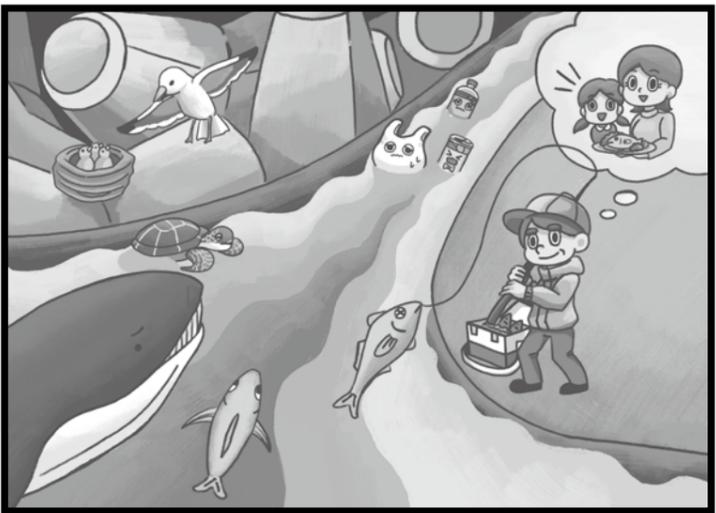
そして人間はうれしそうに言いました。

わあ、今日は、たくさんつれたぞ、子どもたちも喜びぞぞ、
楽しみだな。そう言うと、人間はうれしそうに魚を

たくさん持って帰りました。

たくさんつれたぞ、
子どもたちも喜ぶぞー！
こどもたち





皆さん、この物語をどう思いますか？

ポイすてによりたくさんのおもちゃのレジぶくろくんや

ペットボトルちゃん、カンくんたちが

川に流されて海にたどり着きます。

それを、クジラやウミガメや鳥、

魚たち、海に住む生き物が食べ物と

まちがえて食べてしまいます。

わたしたち人間も、

レジぶくろくんたちを食べた魚を

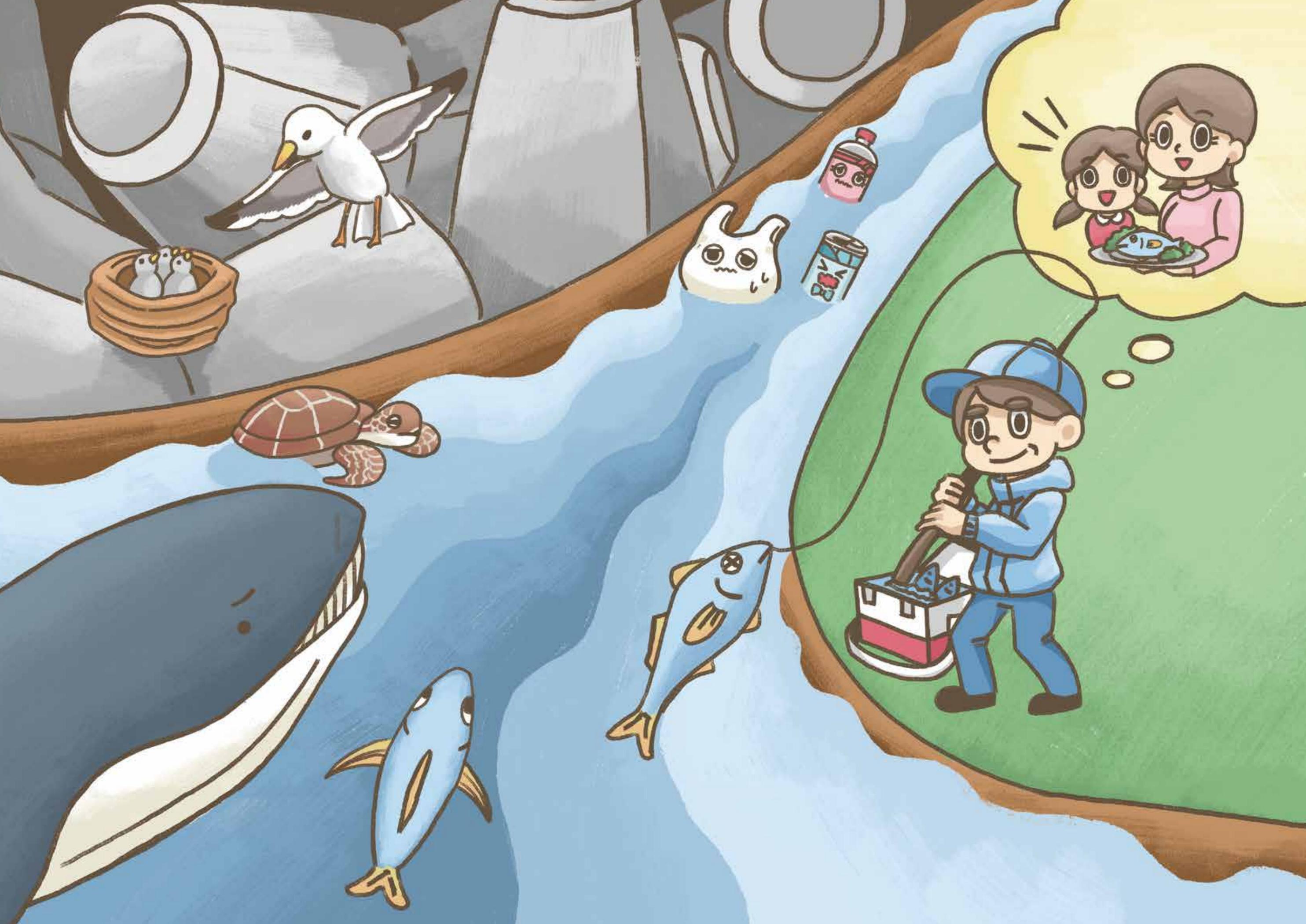
食べているかもしれせん。

では、どうすればレジぶくろくんやペットボトルちゃん、

カンくんたちが海に流れずに、生まれ変わることが

できるのでしょうか？

一度、みんなで考えてみましょう。

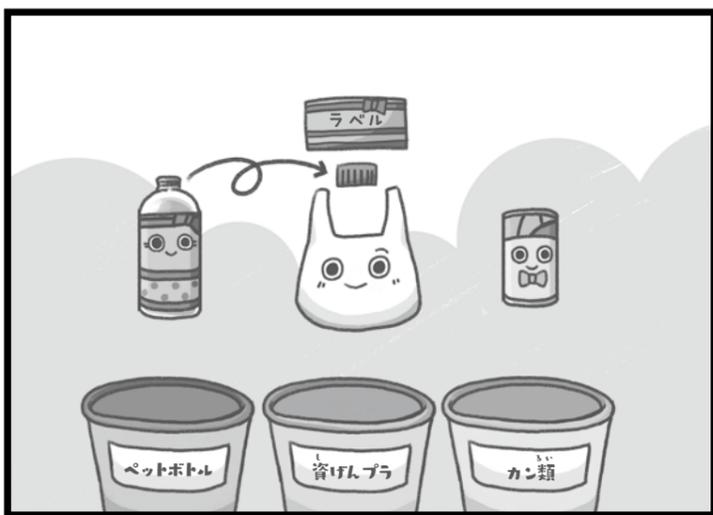




それは、まずポイすてをしないこと！
そうすれば、川かわに落おちて海うみに流ながれ出でることはありません。

ポイすてしないで"
おねがい





次に、決められたところにすてること！

レジぶくろは資げんプラのゴミ箱へ、

ペットボトルはラベルとキャップを外して、

ペットボトルのゴミ箱へ、

外したラベルとキャップは資げんプラのゴミ箱へ、

カンはカン類のゴミ箱へすてましょう。

そうすれば、みんな生まれ変わることができるんだよ。



ペットボトル

し
資げんプラ

ろい
カン類

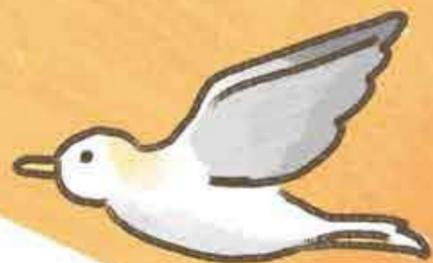


これからもみんなは、ポイすてをしないで、
決められたところにすてようね！
やくそく 約束だよ。

そうすれば、レジぶくろくんやペットボトルちゃん、
カンくんも生まれ変わることができるよ！

おしまい

やくそく
約束だよ！



おしまい





ぼくたちわたしたち

生まれ変わりたいなあ！